

～海洋資源を活用した温暖化対策プロジェクト「横浜ブルーカーボン」～



カーボン・オフセットにLNG燃料タグボートが参加！

LNG(液化天然ガス)を燃料に使用することでクレジットを創出します。

環境未来都市・横浜市は、海洋資源を活用した温暖化対策プロジェクト「横浜ブルーカーボン」において、横浜市独自のカーボン・オフセット制度による取組を平成 26 年度から開始しています。これまでは、「地元産わかめの地産地消」と「海水ヒートポンプの導入」によるCO₂削減効果で、クレジット（CO₂の排出削減量・吸収量）を創出してきました。

このたび新たな取組として、重油よりも環境に優しいLNG（液化天然ガス）を燃料とする「LNG燃料タグボートの導入」によるCO₂削減効果でクレジットを創出し、スポーツイベント等の開催で排出されたCO₂のオフセット（埋め合わせ）を行います。



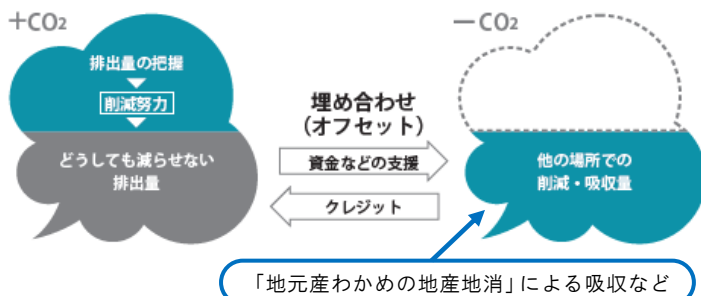
LNG充填中のタグボート

■横浜ブルーカーボンとは

海洋に生息する生き物によって吸収・捕捉される炭素を「ブルーカーボン」といいます。

『横浜ブルーカーボン』では、「ブルーカーボン」に加え、海洋におけるエネルギー等の利活用を「ブルーリソース」と名付け、これらを一体として温暖化対策に取り組み、さらに、海辺環境の魅力を向上させることで「親しみやすい海づくり」を目指しています。

具体的な取組として、ブルーカーボン等を活用したカーボン・オフセット制度（「横浜ブルーカーボン・オフセット制度」）の導入を進めています。



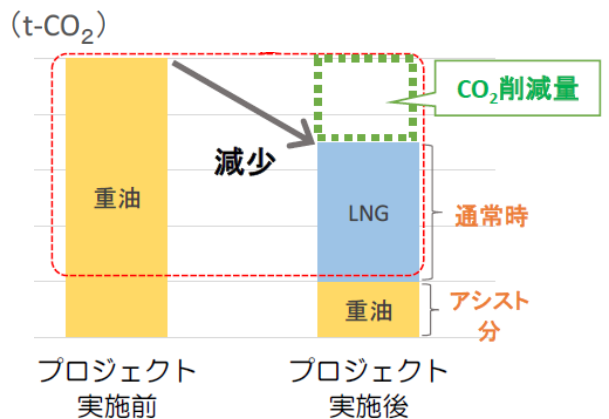
カーボン・オフセットのイメージ

資料：カーボン・オフセットフォーラム HP 掲載図をもとに一部改訂

■LNG燃料タグボートのCO₂削減効果

LNG燃料タグボートは、Dual Fuel エンジンを搭載しており、重油とLNGを燃料として状況に応じて使い分けることで、従来の重油のみを燃料とするタグボートに比べてCO₂排出量を削減することができます。

通常はLNGを燃料として運航していますが、曳船作業中負荷の変動が大きいときは、重油燃料で短時間アシストされます。



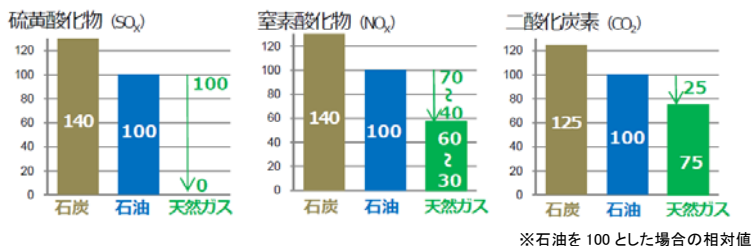
CO₂排出量削減効果のイメージ

■船舶燃料としてのLNG利用について

国際的な船舶の排出ガス規制の強化

国際的な船舶の排出ガス規制強化が進展し、船舶用燃料が従来の重油から排出ガスのクリーンなLNGへ転換することで、LNG燃料船の増大が見込まれています。

LNGの環境優位性



LNGバンカリング拠点としての横浜港の優位性

横浜港にはLNG基地が立地していること、LNG燃料タグボートの運航ノウハウを蓄積していること、そして北米航路等におけるアジア側で最初または最後のバンカリング拠点となり得る地理的特性があることなどから、横浜市は国や関係事業者と連携して、横浜港をLNGバンカリング（燃料供給）拠点とすることを目指しています。

■LNG燃料タグボートについて

船体概要

- ・船名：魁（さきがけ）
- ・全長：37.2m
- ・全幅：10.2m
- ・総トン数：272 トン
- ・船籍港：横浜港
- ・機関：Dual Fuel エンジン
(LNG と重油双方に対応)



「魁」全景

Yokohama Blue Carbon

環境未来都市 横浜
"FutureCity" YOKOHAMA

お問合せ先

(横浜ブルーカーボンについて)	温暖化対策統括本部プロジェクト推進課長	岡崎 修司	Tel 045-671-2636
(LNGバンカリングについて)	港湾局政策調整課担当課長	林 総	Tel 045-671-2877
(タグボート運航について)	株式会社ウイングマリタイムサービス	浅田 泰宏	Tel 045-212-4060